

令和3年度 青梅市立今井小学校 自己評価シート(報告書)

自己評価集計

教育目標	1 思いやりのある子 2 自ら学び考える子 3 心身ともに健康な子
------	---

目指す児童像	1 自分の大切さとともに他の人の大切さを認められる児童 2 主体的に学び、学びを深めることができる児童 3 健やかで、夢に向かって積極的に挑戦する児童
--------	---

目指す教師像	1 愛情をもって、児童一人一人に寄り添うことができる教師 2 指導力と専門性を高め合い、協働する教師 3 保護者や地域の願いを受け止め、指導に生かす教師
--------	--

中・長期目標	1【豊かな心の育成】心豊かに夢に向かって挑戦する児童の育成。集団活動に主体的に取り組み、課題を解決する資質・能力の育成。 2【学力の向上】学習習慣と基礎・基本のの定着および思考力・判断力・表現力の育成。ICT活用による個別最適化と協働的な学習の推進。 3【健康・体力の増進】体力・運動能力の向上を図り、日常的に運動に親しむ態度の育成。 4【家庭・地域との連携・協力】充実した広報活動と開かれた学校づくり。地域・保護者との協働的な学習。 5【教師の働き方の改革】児童とかかわる時間、授業準備の時間を確保し、教育の質の向上のための働き方改革の推進。
--------	--

達成度	4 ほぼ達成	A	85%以上
	3 おおむね達成	B	70%以上
	2 変化の兆し	C	60%以上
	1 不十分	D	60%未満

項目	重点項目	昨年度までの現状と課題	目標	番号	重点評価項目	達成度		最終評価	評価方法	考察及び次年度への課題と改善策	
						自己	関係者				
豊かな心の育成	挨拶の励行	・挨拶を返すことができる児童は増えてきているが、自分から挨拶をすることができる児童が少ない。	取組目標	1A	すすんで挨拶ができるように指導を重ね、児童の主体的な取り組みの計画を立て実践する。職員が率先垂範する。	3.6	A	A	教員の取り組みの記録 児童の行動観察、行動・学習の記録 児童アンケート、関係者アンケートの関連項目から(85%)以上の肯定的評価	・社会生活上のルールや基本的な生活習慣の確立を図りながら、互いを認め合い、共に生きていく態度を養うために、「あいさつ運動」「ろうかの歩行」などへの児童の主体的な取り組みを計画的に実施する。	
			成果目標	1B	児童が場や状況に合わせ、すすんで挨拶をしている。	3.3					
	いじめの防止	・いじめ調査におけるアンケートの結果からは、大きな事案は発生していない。児童が教育相談室を活用する頻度が少ない。	取組目標	2A	重大ないじめの未然防止のため、職員で協力し組織として早期発見・早期対応に努める。全教育活動を通して人権意識を高める。	3.8	A		A	教員の取り組みの記録 児童の行動観察、行動・学習の記録 児童アンケート、関係者アンケートの関連項目から(85%)以上の肯定的評価	・いじめのない豊かな人間関係を構築し、規範意識や公德心を育むために、「いじめに関する内容の関連項目」を重点化して年間指導計画に位置付け、年3回以上の授業を行う。 ・生命尊重の視点に立ち、いじめや暴力行為等を根絶するために、「青梅市いじめの防止に関する条例」「青梅市立今井小学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努める。いじめや児童の問題行動等に対しては、学校経営会議、校内委員会、生活指導部等で組織的に対応し、解決を図る。
			成果目標	2B	児童が思いやりの気持ちをもち、自他共に大切にしようとしている。	3.2					
	異年齢活動の	・コロナ禍において、計画されていた縦割り活動が十分に実施できなかった。特に、縦割り班活動を通し、6年生において最高学年としての自覚を高められなかったことが課題である。	取組目標	3A	全校縦割りのなかよし班活動を充実させ、円滑な活動ができるように支援する。	3.1	A		A	教員の取り組みの記録 児童の行動観察、行動・学習の記録 児童アンケート、関係者アンケートの関連項目から(85%)以上の肯定的評価	・集団の中の一員としての自覚を深めるとともに、社会貢献の精神の基礎を育み、社会生活上のルールや責任感を身に付けさせ、主体的・実践的な態度を育てるために、キャリア・パスポートを活用し、児童が目標と計画を立て振り返る自主的・創造的な学級活動や児童会活動、学校行事を実施していく。 ・児童の自主性や責任感を育て、自己有用感を高めるために、クラブ活動や委員会活動、縦割り班活動を充実させる。
			成果目標	3B	児童がなかよし班で自分の役割を意識したり、仲良く活動したりしている。	3.3					
学力向上	基礎・基本の	・全国学力学習状況調査の結果が、全国・東京都の平均値より下回っている。C層の児童が多い。知識の活用と、定着に課題が残る。	取組目標	4A	基礎・基本を重視し、個に応じた指導を充実させ、できる・わかる授業に努める。アフタースクールの充実。	3.1	A	B	教員の取り組みの記録 児童の行動観察、行動・学習の記録 児童アンケート、関係者アンケートの関連項目から(85%)以上の肯定的評価	・児童一人一人の資質・能力の向上を図るために、青梅市学力向上5か年計画、青梅市小・中学校授業指針、今井小学校学力向上推進プランに則り、「学びと心の育成事業」における「学力向上への対応を図る事業」を充実させ、授業改善とカリキュラム・マネジメントに努める。 ・教師の授業力および専門性を向上させ、授業準備を効率化するために、同学年の担任による交換授業を行い、教科担任制の実施に向け準備をしていく。	
			成果目標	4B	児童が算数をはじめ、各教科の単元のまとめ、東京ベーシックの評価問題等で平均8割程度達成している。	2.1					
	ICTの活用	・各教室に大型プロジェクターや書画カメラ、児童に1人一台端末のChromebookが導入された。	取組目標	5A	ICTを活用した「伝え合う活動」「振り返り活動」を重視した授業改善に努め、主体的に学習に臨む態度を育てる。	3	A		B	教員の取り組みの記録 児童の行動観察、行動・学習の記録 児童アンケート、関係者アンケートの関連項目から(85%)以上の肯定的評価	・コロナ禍等においても学びを止めないために、年度始めに全学年でリモート学習を実施しリモート学習ができる体制づくりを行う。 ・全ての児童が「分かる・できる」ことをめざした授業展開や教室環境等のユニバーサルデザイン化、個別最適化された学習をすすめるために、ICTを効果的に活用し児童への指導の充実を図る。 ・「プログラミング的思考」を育むために、各教科の特質に応じてICTを活用しながら情報活用能力を高める学習を年間指導計画に基づき推進する。
			成果目標	5B	週に3回以上はICT機器を学習用具として使い、自身の学習を整理したり、深めたりしている。	3.1					
	家庭学習の	・学年×10分間以上を目標とした家庭学習の取り組みに対する肯定的な保護者評価は74%、児童は86%と両者の認識に差がある。数値的には改善傾向にある。	取組目標	6A	家庭学習頑張り週間、家庭学習の手引きの活用を促す等家庭学習の時間を確保できるように児童や家庭に啓発する。長期休業中などにICTを活用し家庭学習との連携を図る。	3	B		B	教員の取り組みの記録 児童の行動観察、行動・学習の記録 児童アンケート、関係者アンケートの関連項目から(85%)以上の肯定的評価	・児童の自主的な家庭学習の習慣を定着させるために、毎学期始め2週間を「家庭学習がんばり週間」とし、「家庭学習の手引き」をもとに家庭学習の必要性について保護者に啓発を行うとともに、児童が自身に必要な学習を自ら計画し実行し振り返る活動を通して家庭学習の充実を図る。
			成果目標	6B	児童の家庭学習の取り組みが100%となり、家庭学習が習慣化している。児童が自己の課題をつかみ、その解決のために主体的に家庭学習に取り組んでいる。	2.7					

健康な身体	体育的活動の充実	・コロナ禍において、実施できなかった体育的活動が多かった。令和2年度の新体力テストの結果は、全国・東京都の平均値からは劣っている。	取組目標	7A	体力向上のために体育の授業を工夫し、休み時間や放課後に運動に親しむ児童の育成を図る。	3.3	A	A	教員の取り組みの記録 児童の行動観察、行動・学習の記録 児童アンケート、関係者アンケートの関連項目から(85)%以上の肯定的評価	・体力を向上させ、健康的な生活を送る態度や心情を育てるために、「なわとび週間」「マラソン週間」などの活動を実施する。 ・生涯にわたってスポーツを愛好する児童を育成するために、スポーツへの関心を高める取組をオリンピック・パラリンピック教育のレガシーとして実施する。			
			成果目標	7B	体力テストで、都の平均値をほぼ達成できている。または、休み時間に外遊びをする児童が増えている。	2.5							
	感染拡大防止	・「今井小ガイドライン」を作成し、新型コロナウイルスの感染拡大対策に努めた。児童自らが感染予防に対する取り組みをすすんで実践できるよう、意欲を高めさせる必要がある。	取組目標	8A	「今井小ガイドライン」に基づき感染拡大防止の実行に努める。	3.7	A						
			成果目標	8B	手洗い、マスクの着用、ソーシャルディスタンス等の新しい学校生活様式を意識し、実践している。	3.8							
	生活習慣の見直し	・全国平均値に比べ、児童がテレビやゲーム・スマートフォン等の電子メディアに触れる時間が長い。	取組目標	9A	健康的な生活習慣の確立を目指した指導を行う。SNS東京ノート等を活用し「今井小SNSルール」の定着を図り、メディアとの付き合い方を意識させる。	3.2	A						
			成果目標	9B	今井小SNSルールや家庭での約束を意識した生活ができている。	2.9							
地域・家庭との連携	学校広報の充実	・コロナ禍において、保護者・地域の方が学校に来校する機会が減少している。PTA活動はオンラインに移行し、活動を再開した。	取組目標	10A	学級・学年だより、面談、電話連絡、HP等で児童の様子を積極的に伝える。	3.4	A	B	教員の取り組みの記録 児童の行動観察、行動・学習の記録 児童アンケート、関係者アンケートの関連項目から(85)%以上の肯定的評価	・保護者・地域が学校の教育活動に関心を寄せ、互いに協働できる体制を構築するために、学校だよりやホームページを充実させる。ホームページではブログの更新を頻繁に行い、児童の学校での様子を保護者に伝えるようにする。また、コロナ禍でも開催できるオンライン会議を計画的に行うことでPTA活動を継続させ、保護者と一体になった教育活動を推進する。			
			成果目標	10B	学校の情報が適切に伝わり、保護者が教育活動に関心を寄せ、学校と協働している。	2.8							
教師の働き方の改革	児童とのかかわる時間の創造	・定時時間外の労働時間は減少している。ゼロに近付けるためには、さらなる工夫が必要である。	取組目標	11A	会議の効率化、ペーパーレス化、伝達事項のオンライン化を推進し、児童とのかかわる時間と授業準備の時間を生み出すように努める。	2.8	A						
			成果目標	11B	児童の教師とのかかわる時間が増え、共に活動したり、相談に乗ったりしている。	2.8							
											・授業研究の時間を生み出すために、校務分掌組織を見直し、会議・打ち合わせの時間を精選、削減する。複数あった校務分掌を一本化することで打ち合わせの時間を半数に削減し、業務の効率化を図る。また、教科担任制の導入に向け、専科授業を推進する。専科の授業を増やすことで教員それぞれの授業研究の時間が確保できるだけでなく、多くの教員が児童と接することで、複数の目で児童を見守ることができ、不安や悩みの解消やいじめ防止につなげる。		